

中世コーナーに展示されている掲記の日本地図について、「古地図の博物誌」織田武雄(古今書院1998)から抜粋して参考としてまとめました。

1. 日本図製作までの経緯

- ① テイセイラとは Luis Teixeira ポルトガルの地図作成業者。テイセイラ家の一員でスペイン王室専属。
- ② オルテリウスとは Abraham Ortelius(1527~1598) ベルギー・アントワープ生まれの地図学者。メルカルトらの地理学者と親交があった。1564年世界大地図(8枚構成)、1565年エジプト図(2枚構成)、1567年アジア図を出版。1570年「世界の舞台」初版 70枚の地図を53ページの地図帳に編集。ヨーロッパ最初の完備された地図帳として需要が多く2版を重ねた。
- ③ 日本図の出版 1592年日本図(次項参照)がテイセイラからオルテリウスに送られた。これを基に1595年版には日本図が加えられた。これは単独の日本図としてはヨーロッパ最初のもの。

2. テイセイラによる日本図の基になったと思われる原図

- ① 唐招提寺図系の行基図を基にしている。(東日本部分の描写が類似)
図は唐招提寺蔵の行基図と同系統のもの(東京大学アーカイブズポータルにて所蔵)
見慣れた日本図に合わせ、見易くするために原図を180度回転させている。(右図)



- ② 浄得寺(福井市)の日本図屏風から琵琶湖、河川、山地の表現を採用。
三国湊の豪商の内田家から寺に寄進。
現在は、若狭歴史民俗資料館に寄託。
桃山時代の六曲一双、狩野永徳の作か?とされている。(右図)



- ③ 四国はドゥラード型図を基にしている。
1568年作成の手書きの日本図で、23の国名と58の地名が記されている。
- ④ 九州は実際に近くポルトガル船作成の海図を基にしている。

3. テイセイラ図(1595年版)の詳細

- ① 日本図: 35.5X48.5cmの銅板印刷の手彩色。裏面には「インド史」から引用された日本の国情、国民性、風俗、宗教などが記載されている。言語はラテン語。出版地はロンドン。
- ② 日本図での日本の位置: 緯度は実際より4度短い。経度は4度の誤差がある。

【参考文献】「古地図の博物誌」 織田武雄 古今書院 1998 「日本大百科全書」

[TOP - 日本関係欧文史料の世界 \(nichibun.ac.jp\)](http://top.nichibun.ac.jp)

[東京大学附属図書館 \(u-tokyo.ac.jp\)](http://u-tokyo.ac.jp)